

■ 教育学研究科

学校教育専攻

取得学位の名称
◆修士（教育学）

プログラムの概要

学校教育専攻には、学校教育における教育の理念、カリキュラムの開発と評価、教授・学習の原理、児童・生徒の成長・発達、人格と適応などについて学修・研究し、初等・中等教育を中心とした教育諸科学の深い学識にもとづいて教育実践・学校経営に取り組む教員を育成する【教育科学コース】。特別支援教育や障害科学に関する高度な専門的知識を修得するとともに教育実践研究を蓄積し、障害状況にある児童生徒の変化・成長を助け、促すことができる実践的な指導力を有する教員を育成する【特別支援教育コース】。そして、各専門分野の知識・技能を深化させるとともに、更に隣接諸分野の学修により、幅広い視野や柔軟で学際的な研究力・創造力を養うことで、教科に強い高度な実践的指導力と専門的力量を有する教員を育成する【教科教育コース】があります。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

学校教育専攻では、以下の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学位を授与します。修了の認定は、所定の単位修得に加え、研究科の目的に応じた学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査（最終試験）で行います。

- (A) 教育関係諸科学についての幅広い知識や専門分野についての高度な知識を有し、多様な場面において理論に裏打ちされた適切な指導ができる。
- (B) 教育や教科に関する諸課題を科学的に考察し、その解決に向けて理論と実践に基づいた柔軟で自律的な取り組みができる。
- (C) 教育者としての使命感と責任感をもち、豊かな人間性と幅広い視野で社会に貢献できる。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

- (1) 学校教育や教職についての基礎理論・知識を修得し、教科と研究に関する基礎的能力を持つ人
- (2) 教科や発達・教育課程に関する知識・技能を持ち、教育実践を通して児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発力の向上を目指そうとする人
- (3) 教育経験を省察し、より高度な専門的力量を育み、教職についてより深く探求しようとする人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 学校教育についての基礎理論・知識を修得し、教育と研究に関する基礎的能力を備えているか評価します。
- (2) 教育活動に積極的に取り組む熱意と能力があるかどうか評価の対象とします。
- (3) 入学試験ではA方式選抜とB方式選抜のどちらかを選択し、領域ごとに選抜を行います。A方式選抜では各領域の基礎的な専門学力を筆記試験にて評価します。また、口述試験では研究計画概要等に基づいて主体的に研究に取り組む意欲と能力を備えているかを評価します。B方式選抜ではあらかじめ提出された「教育実践概要」と「教育計画概要」に基づく小論文と口述試験により、より高度な専門的力量を育み教職についてより深く追求できるかどうか評価します。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

学修・教育目標を達成するため、次ページのカリキュラムツリーに示すような授業科目が編成されています。

【専攻共通科目】：共通基礎科目では、特に児童生徒の発達段階やカウンセリングなどに関する理論についての専門的知識を学びます。教職実践科目では、各自が学ぶ専門的内容と教育実践を結び付け実際に活用することを目的とし、児童生徒の実態や課題を把握した上で教育実践を計画・実施、振り返りを行います。

【コース専門科目】：例えば教科教育コースでは、コース基礎科目として、教授・学習過程論、授業研究に加え、教科と教職を架橋する科目（教材開発論）を開設。専門的知識を活かし実態に応じて指導内容を工夫するなど、適切な授業を構成することで新たな学びの展開力を培います。また、学生は自らが専門とする教科についての上記3科目に加え、近接教科の教授論、授業研究、又は教材開発論のひとつを履修することで、幅広い視野の育成や従来の枠にとらわれない教材開発など、柔軟で学際的な研究力・創造力の育成を図ります。コース選択科目では、各自が学ぶ分野・領域における専門科目を履修し、専門性をより一層高めます。特別研究では、教職実践研究・インターンシップを土台とし、各自が推進してきた専門領域の研究成果を整理・とりまとめます。

学校教育専攻 カリキュラムツリー

